

「基礎学力をつけるための指導の工夫」
～意欲的に英語学習に取り組む生徒の育成を目指して～

I 主題設定の理由

本年度の研究主題は、東山梨外国語部会でここ数年継続的に設定しているものである。毎年部員が変わっていくなかでも、また生徒も毎年変わっていくなか本主題は普遍的なテーマであり研究の余地が十分あると考えられる。基礎・基本の定着は外国語のみならず他の教科においても長きに渡りテーマとされているものであるが、外国語という教科は土台（基礎・基本）がなければその上に建つもの（応用）はないことが顕著である。そこで今年度は引き続き本主題を設定し基礎学力の定着と意欲的に英語学習に取り組む生徒の育成を目指すことにした。

平成24年度から中学校の新学習指導要領が完全実施されるわけだが、外国語科における大きな変更点のひとつとして語彙の増加がある。平成23年度までは「900語程度まで」であったが、新学習指導要領においては「1200語程度」に増加する。そこで本部会では、基礎学力を付けるための指導として、語彙習得にも注目することにした。昨年度までの研究の中で東山外国語部会では、基礎学力を「教科書に書かれていることが読める、意味が分かる、書ける」と定義づけてきた。本年度は特に教科書が読め、意味が分かり、書くことができるために、語彙の導入方法や、語彙をどう定着させ実際に活用していくことが有効かという側面にスポットを当てて研究していくことにした。

II 研究の具体的すすめ方

- ① 各学年に分かれて、語彙の提示の仕方、定着の仕方の意見・情報交換
- ② AETによる第2言語習得について
- ③ 研究授業の指導案検討
- ④ 研究授業の授業観察、その後の研究会

III 成果と課題

1 各学年に分かれて、語彙の提示の仕方、定着の仕方の意見・情報交換

→指導方法のアイデアが増し、授業に活かすことができた。部会において研究授業以外に授業におけるアイデアをシェアする時間がなかなかないので実に有意義であった。次年度以降も続けていきたい。一方で今年度は1回のみ継続性のない情報交換会になってしまい、今後は日程を十分考慮した上で単発的な情報交換会にならないようにしたい。

2 AETによる第2言語習得について

→5名のAETに第2言語習得の体験談を話してもらった。母国語が英語で第2言語が、フランス語、日本語、スペイン語などと違った言語であった。日本語を学んでいたあるAETによると、「1年目のゴールは日本語の学び方を学び、生徒が興味をひくものを積極的に教師は活用していた。2年目には、生徒が分からなくても、教師は常に日本語を授業で使い続けていた。3年目になると教科書は使わず、4年目になると会話のみの授業だった。」と話してくれた。どのAETも、授業の中で教師だけでなく生徒も積極的に学習している言語を使っているという。その背景には授業のなかで小さな間違いを気にしない（若しくは、間違いを上手に指摘しあう）雰囲気作りがあり、生徒にその言語を学ぶ動機付けがしっかりしているということがある。

日本における英語教育にそのまま当てはめることができないこともあったが話の中で以上のようなヒントとなるものもあり参考になった。テーマを変えてAETを交えた意見交換会もこれから計画することは授業改善のヒントとなるのかもしれない。

3 研究授業の指導案検討

→毎年、指導案の検討は互いに勉強になっている。授業案作成にあたり、指導内容・指導方法を熟考する絶好の機会でありこれからも指導案検討の時間は大切にしていきたい。新採用の先生方には指導案の形式などを学ぶ機会にもなった。

4 研究授業の授業観察、その後の研究会

→実際に授業を参観することで、生徒の反応やAETとの授業の進め方を観察することができ参考になった。各教師の自分の世界の中で行っている授業の見直しや新たな気づきをもたらしてくれた。

5 その他

(1)研究会の回数も少ないため、今年度と同様に大まかなテーマを設定し各自の日々の実践発表を元に互いに学びあう形式がよいと思う。

(2)研究授業が中心になっているだけ方向性（テーマ）を幅広くもたせるほうが授業者がやりやすいと思う。しかし共同研究とするとなかなかテーマにせまりにくいと思う。来年度は関プロもありある程度の方向性を示していければと思う。

(3)テーマに関わり語彙習得の方法などについて意識をすることができたと思う。

(4)研究授業では自分にはないものを多く学べ気づくことが多い。自分の授業をする際に実践できるようなアイデアをもらえた。

(部長 三枝洋介)